

## 平成20年8月の地震活動及び火山活動について

### [地震活動]

震度5弱以上を観測した地震及び津波を観測した地震はありませんでした。

全国で震度1以上を観測した地震の回数は136回、日本及びその周辺におけるM4.0以上の地震の回数は89回でした。

国土地理院のGPS観測結果では、全国の地殻変動について特に目立った変動は見られません。

震度3以上を観測するなどの主な地震活動の概況は別紙1のとおりです。また、世界の主な地震は別紙2のとおりです。

### [火山活動]

浅間山では、8月に入って火山性地震の回数が増加したこと、6日頃から噴煙量が増加したことなどから、火山活動が高まったと判断し、8日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表して、噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に引き上げました。10日、11日及び14日にはごく小規模な噴火が発生しました。火山性地震のやや多い状態はその後も続いており、二酸化硫黄の放出量が10日以降2004年の噴火後と同程度の多い量を観測しているなど、火山活動の高まった状態が続いています。

霧島山（新燃岳）では、19日から火山性地震の回数が増加し、22日16時34分頃に噴火が発生するなど、火山活動が高まったと判断し、22日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表して、噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に引き上げました。22日の噴火では、新燃岳の山頂に新たな火孔と西側火口外の火口縁から付近まで弾道を描いて飛散する大きな噴石が達していることが確認されました。噴火に伴う降灰が新燃岳北東側の宮崎県小林市等で確認されています。その後地震回数は次第に減少しているものの、噴煙が火口縁上100～700mの高さまで上がっています。

桜島では、昭和火口と南岳山頂火口での噴火の発生がいずれも1回でした。このことから、昭和火口及び南岳山頂火口から2km程度の範囲に影響の及ぶ噴火の発生の可能性は低くなったものと判断し、28日に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表して、噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げました。

口永良部島では、9月2日（期間外）以降、火山性地震が増え始め、4日にさらに回数が増加したことから、火山活動が高まったと判断し、9月4日（期間外）に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表して、噴火警戒レベルを1（平常）から2（火口周辺規制）に引き上げました。その後、地震回数は減少していますが、引き続き新岳火口から1km程度の範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いています。

諏訪之瀬島では、1日及び24日から26日にかけて小規模な噴火が時々発生しました。その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

日本の主な火山活動の概況は別紙3のとおりです。また、世界の主な火山活動は別紙4のとおりです。

注1：噴火警戒レベルには、レベル毎に防災機関等の行動がキーワードとして示されており、導入にあたっては、噴火警戒レベルの活用が地域防災計画等に定められることが条件となります。

注2：国土地理院のGPSによる地殻変動観測については、国土地理院ホームページの記者発表資料「平成20年7月～8月の地殻変動について」を参照願います。

<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/2008/goudou0910.html>

注3：気象庁の地震活動資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています。

注4：地震活動及び火山活動の詳細については、地震・火山月報(防災編)平成20年8月号(平成20年9月末頃に刊行及び気象庁ホームページ掲載予定)をご覧ください。

注5：平成20年9月の地震活動及び火山活動については、平成20年10月7日に発表の予定です。